**台湾工作機械情報**

**2021年７月15日**

* **国家チーム再び結成、領域を超えて軍を成す**

**「スマート製造SaaSクラウドサービス連盟」推進**

　工作機械とパーツ工業同業工業会（以下工作機械工業会）が３月３０日台北国際会議センターで「スマート製造SaaSクラウドサービス連盟」立ち上げ記者会見を開き、産業、政府、研究における工作機械工業会の豊富な強みをアピールした。

講演のなかで理事長の許文憲氏は、昨今の国内産業における急激な市場の変化、製造業の再編、ビジネスモデルの変化、人材流出の発生など、多くの課題に直面していることに加え、米中貿易戦争による新たな産業構造やサービスモデル、コロナ流行後のトランスナショナルサプライチェーンの再編などのデジタルトランスフォーメーション（DX）が産業の切迫したニーズを解決する鍵になると指摘した。工作機械産業の場合その8割以上が中小企業で、デジタル技術に投資したいと思いつつも力が及ばない。

デジタル技術が今の運営状況の改善につながると彼は考えている。デジタルトランスフォーメーションを迎えた際、企業は新たな運営方式と競争力を生み出すことができる。製造業は我が国全産業の基盤だ。政府は近年もあるスマート製造のクラウド政策を実施し、産業界がクラウドにさらにアクセスしやすくなるようにと考えている。それは誰もが耳にしたことがあるであろうIaaS、PaaS、SaaSだ。PaaSは誰もが知るクラウドプラットフォームだ。理事長の許文憲氏が例えにしてこう語った「クラウドプラットフォームは言うなればひとつの百貨店のようなものだ。そしてSaaSはこれらの百貨店をつなげる「どこでもドア」で、メーカーがそれぞれの百貨店間を自由に往来しそれぞれ必要とするものを利用することができる。いま、SaaSクラウドサービス連盟を立ち上げた目的はこの門に蓋をするためだ！」

　目下、国内のデジタル化の一部はまずまずの成果を納めているが、クラウド導入比率は相対的に低い。国内外産業の急速な変化に対応して、産業がクラウドサービス全体の技術力を統合することは急務だ。まずSaaS格式の規範を定めることから始めて、クラウドのデジタル化を迅速に進めるべきだ。これもまた工作機械工業会が推進する「スマート製造SaaSクラウドサービス連盟」の契機となるだろう。

　工作機械工業会は「今回スマート製造SaaSクラウドサービス連盟は、工作機械産業、自動車産業、航空宇宙産業、ソフトウェア・サービス産業、水金属産業等に跨る国内６つの主要業界団体、法人4社、国内製造業48社を招待した。」と語った。

　今後はユーザーニーズの観点から各業界団体との連携を深め、最終産業のニーズに直結した運営を行いたい。また、永進機械の陳伯佳総経理が招集担当する「技術委員会」を運営の中心に、SaaS業者、プラットフォームサプライメーカーや国内法人とともにSaaS産業規格を推進していく。そして統一されたデータ交換フォーマットでデータを標準化、業界を超えてともに発展しあらゆる産業に応用できるソフトウェアサービス連盟となることで産官学の資源を統合し、政府と協力して共に国内中小企業のデジタル化発展を推進していきたい。

（資料元：工作機械とパーツ雑誌，2021，NO.129 頁50-51）

* **生産、受注ともに１兆円を下回る**

**新型コロナの影響を受け需要消失**

　2020年は新型コロナウィルスが猛威を振るう一年となった。日本経済は第一次緊急事態宣言が出された5月を底にして改善したが年末コロナ禍が再び蔓延し、景気は先行き不透明となるほど悪化した。

　今回の新型コロナは工作機械産業界にも莫大な打撃をもらたした。生産額、売上、受注総額、輸出額、輸入額と国内消費額はいずれも前年より大幅に減少した。

**11年ぶりに8000億円下回る**

　経済産業省の機械統計によれば、2020年工作機械生産額規模は前年同期より31.4%減少した。すでに２年連続減少、７年ぶりに１兆円を下回った。

　日本工業公会のデータによれば、2020年工作機械受注総額は前年比26.7％減少し十年ぶりに１兆円を下回った。米中貿易摩擦問題の影響を受けて2019年から受注が減少傾向に、また新冠コロナウィルス流行によってさらに悪化、単月ベースでは年間を通して下降に向かっている。

　内需規模は前年比34.2％減少、自動車など国内の主な工作機械産業も将来の不安から設備投資に慎重な姿勢を見せており、工作機械のニーズも低迷している。

　下半期から回復し始めた外需規模は前年比21.6％減少した。アジア、北米、欧州これら主要な三大地域はどこも前年の水準を下回ったが、アジアは1.4％ほどの減少に抑えた。中国が最大発揮したおかげで前年より23.5％増加したためだ。3年ぶりに前年を上回った。

**東アジア勢力が頭角を現す**

　財務省の貿易統計によれば、2020年の工作機械輸出額は前年同期比28.0％減少した。各国政府の海外渡航規制の影響で、日本から供給される工作機械の出荷や現地での受け入れが遅れ、輸出額が大幅に減少した。

　国別に分析すると、１位の中国は前年同期比5.3％増加、２位の米国は前年比38.9％減少し、二大輸出国の順位が前年から入れ替わった。この他、第３位は韓国、台湾は第４位と新型コロナの影響から回復してきた東アジア勢力が早い段階で上位を占めたことが伺える。

**輸入機械の需要も停滞**

財務省の貿易統計データによれば、2020年工作機械輸入額は前年同期比35.4％減少した。

輸入のトップはドイツで前年同期比21.4％減、次いで中国、タイが続き、上位3カ国が輸入全体の約6割を占めた。

　工作機械業界の市場状況は今年外需をメインに順調に回復している。2月受注総額は前年同月より36.7％増加、１年７ヶ月ぶりに1000億円を突破した。

　今年１月第２緊急事態宣言を受けて、２月の内需は前年同期より4.8％減少と引き続き下降ぎみ、一方で外需は前年同期比66.1％増加した。アジア、北米と欧州この3つの主要地区は前年同月比と前年同期比ともに増加、中国と欧米市場も回復の兆しが見られつつある。

**現地展示会とオンライン展示会の活用**

　新型コロナだけでなく、米中貿易摩擦問題と地政学的リスク、主なユーザー業界のサプライチェーン再構築の影響など懸念すべき要素は多い。

　この他、今年コロナが蔓延するなか、現地展覧会とオンライン展覧会を同時に開催するケースが多く見られた。だが、各企業が自社製品や技術をアピールするために現地展覧会とオンライン展覧会をうまく活用できなければ、顧客にその製品の特徴や魅力を充分伝えることができず受注のチャンスを逃すことになる。

　新型コロナなどでこの先不穏な事業環境の中で、工作機械業界は今年の受注をどこまで成長させることができるのだろうか…。

（資料元：工作機械とパーツ雑誌，2021，NO.131 頁84-91）

* **2020年台湾工作機械メーカーのランキング**

天下雜誌による恒例の台湾企業トップ2000が5月に出版された。これらのランキング（表１）と内容は、2020年の台湾工作機械企業にとって最も困難のピークになることを語っている。しかしながら、以下３つの特徴は注目に値する。

（１）カスタマイズに力を入れている台中精機や欧州市場に深く入り込んでいる百德機械のように特色ある機械メーカーはいまだ成長を続けている。そんな中、百德機械の主な損失要因は米国企業の買収によるものだ。

（２）４つのパーツメーカーは好成績を維持している。トップ２は上銀科技（HIWIN）と亞德客(エアテック)で、すでに関連分野のプラットフォーム企業へと転換し、工作機械関連の顧客はすでに3割弱に陥っていると予想される。

（３）達佛羅や協鴻工業など、かつて価格勝負で急成長した輸出型企業の衰退が目立つ。

　　産業エコシステムの観点から見れば、過去に価格で勝ち取ってきた工作機械メーカーは伸び悩みに直面している。顧客のニーズと資源共存が発展への重要な出口となる。例えばすでに伝動システム型プラットフォームに転換した上銀科技と亞德客は川上で工作機企業を含む複数の産業をサポートしている。これに対して、工作機械企業が川下のユーザの使用プロセスを観察することを通じてカスタムマイズプラットフォーム企業に変われるかどうかが興味深い。台中精機や杭州にある友嘉高松は既にこうしたカスタムマイズプラットフォーム企業に模索してゆくように見られる。

表１　2020年台湾工作機械メーカーのランキング

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 企業名 | 売上高(億元) | 成長率(%)  | 利益(億元) | 利益率(%) |
| 1 | 上銀科技 | 212.67 | 5.23 | 19.30 | 9.08 |
| 2 | 亞德客國際集團 | 191.03 | 20.17 | 48.45 | 25.36 |
| 3 | 東台精機 | 77.79 | -29.28 | -3.47 | -4.46 |
| 4 | 台中精機廠 | 69.20 | 4.88 | N.A. | – |
| 5 | 程泰機械 (含亞崴) | 52.05 | -15.02 | 4.85 | 9.32 |
| 6 | 金豐機器工業 | 43.10 | -16.39 | 1.33 | 3.09 |
| 7 | 友佳國際控股 | 37.47 | -8.07 | N.A. | – |
| 8 | 永進機械工業 | 35.29 | -14.26 | N.A. | – |
| 9 | 亞崴機電 | 30.94 | -9.48 | 3.79 | 12.25 |
| 10 | 全球傳動科技 | 27.40 | 29.98 | 0.91 | 3.32 |
| 11 | 協易機械工業 | 26.42 | -21.30 | 0.16 | 0.61 |
| 12 | 崴立機電 | 26.10 | -14.62 | N.A. | – |
| 13 | 油機工業 | 24.82 | -13.28 | 0.71 | 2.86 |
| 14 | 台灣瀧澤科技 | 21.24 | -19.76 | 0.19 | 0.89 |
| 15 | 百德機械 | 20.94 | 9.35 | -3.53 | -16.86 |
| 16 | 協鴻工業 | 20.39 | -24.37 | 0.09 | 0.44 |
| 17 | 台灣麗馳科技 | 18.11 | -18.05 | -0.76 | -4.20 |
| 18 | 高鋒工業 | 16.09 | -14.55 | -0.12 | -0.75 |
| 19 | 台灣氣立 | 15.82 | 15.73 | 1.37 | 8.66 |
| 20 | 達佛羅 | 12.44 | -49.22 | -1.59 | -12.78 |
| 21 | 福裕事業 | 11.17 | -18.82 | -0.39 | -3.49 |

註：第5位の程泰機械にはグループ企業の亞崴機電(第9位)も含む、単独では第14位。

　　　　　　　(資料元：天下雜誌723期、劉仁傑研究室)

* **2021年台湾工作機械産業の現状と展望**

　昨今の国際経済情勢を観察すると、ワクチン接種率の増加につれて世界の経済活動も回復し始めている。製造業の生産、民間の消費も徐々に回復している。

　2021年１-４月台湾工作機械輸出総額は8.05億米ドル、去年比９％の成長だった。そのうち、金属切削工作機械輸出は7.3％成長、金額は6.58億米ドル、金属成型工作機械輸出は17.4％成長、金額は1.47億米ドルだった。

　2021年1-4月金属切削工作機械の主な輸出機種は順にマシニングセンタ、輸出金額は約2.58億米ドル、去年同期比６％の成長、旋盤は第２位、輸出金額は1.69億米ドル、去年同期比7.1％成長した。金属成型工作機械の輸出部門では、鍛圧、プレス成型工作機輸出金額が約1.18億米ドル、去年同期比23.2％成長した。

　輸出国（地区）別の分析によれば、2021年1-4月台湾工作機械輸出国トップ10は順に中国（香港含む）、米国、トルコ、インド、ロシア、ベトナム、タイ、マレーシア、オランダ、日本だった。そのうち、台湾から中国大陸（香港含む）向けに輸出される工作機械金額は2.8億米ドル近く、去年比28.5%の成長、輸出全体の34.8％を占める。輸出第２位は米国市場、輸出額は8,940万米ドル近く、輸出金額は去年比5.6％減少、輸出全体の約11.1％を占めた。トルコは第３位、輸出金額は6,904万米ドル、去年比28.8％近くと大幅成長した。輸出全体の8.6％を占めた。

　2021年1-4月台湾工作機械輸入金額は3.49億米ドル、去年同期比58％成長した。そのうち、金属切削工作機械輸入金額は3.12億米ドル、去年同期比62.6％成長、金属成型工作機輸入金額は約3,745萬米ドル、28.4％成長した。

　Gardner Publication, Inc.が最近発表した2020年世界工作機械生産販売調査報告によれば、国別の生産・販売台数を見ても明らかなように新型ウィルスがもたらした経済封鎖は世界に大きな打撃となった。それはまた工作機械市場にも深刻な打撃となった。2020円世界工作機械消費量は、2019年に比べて5分の1に減少、2009年金融危機下に減少した工作機械消費総量とほぼ大差ない。

　Gardner産業売上報告統計データによれば、2020年世界工作機械消費総額は約668億米ドル、2019年より20.1％減少した。主な消費国トップ15は順に中国大陸、米国、ドイツ、日本、イタリア、韓国、インド、台湾、ロシア、メキシコ、カナダ、フランス、トルコ、ブラジルとタイだった。しかし上位15カ国のうち、工作機械の消費が伸びたのはトルコのみで、その他の市場では消費が減少した。

　中国大陸は、2020年工作機械消費総額は213.1億米ドルで2019年より約12億米ドル減少、5.4%下落した。しかしながら工作機械消費の減少幅は、他の主な消費市場に比べれば優位だった。主な原因は中国大陸でのコロナ感染状況が回復したことにある。中国大陸の「ダブル循環」経済政策は国内市場のニーズを再び燃え上がらせただけでなく、他国家の市場経済をも活性化させた。このコロナ禍による混沌とした状況下で中国大陸は世界経済の重要なエンジン役となり各国市場経済を引っ張っていく。

　米国の2020年工作機械消費総額は83.4億米ドル、2019年より約11.7億米ドル減少、12.5％下落した。今回のコロナは過去に経験した不況とは別物だ。これまでの不況は景気に敏感に左右され易い製造業は大きな打撃を受けてきたもののサービス業への影響は軽かったが、今回のコロナ襲撃は製造業もサービス業も救いようのない状況となった。米国経済に深刻な不況をもたらし2020年の経済は3.5％縮小した。ここ11年来初のマイナス成長となり、米国政府は経済活性化のために非常に緩和的な金融政策を続けているが、市場の動きはまだ期待するほどでもない。

　2020年世界の工作機械生産総額は約680億米ドルで、2019年より約19.9％減少、2009年金融危機の生産額とわずか３％差だった。生産量トップ15カ国の生産総額は世界工作機械生産額の９割ほどを占める。これら主な工作機械生産国のうちロシアだけが生産額がわずかに増加したが、残りの国の生産額はどこも去年より減少した。減少幅から見ると中国と米国の生産額は10％未満の減少、他国は14～45％ほど減少した。

* **最近のニュース**

**業界動向/工作機械の需要上昇　競争力高める３つのポイント**

【2021-04-04 経済日報】

世界的の工作機械市場の需要が高まるとともに、台湾産業の輸出も成長している。台湾工作機械とパーツ工業同業公会統計によれば、今年１，２月の工作機械輸出額は去年同期と比較して１割以上成長した。ドイツ、日本など工作機械大国との競争に対し、台湾工作機械業は３つの大きな方向性すなわち、高効率、高品質、高価値を武器に国際市場に挑む必要がある。

第一に設備を国際化しコストダウンすること。省エネ、半導体産業はいま台湾ですさまじい発展を遂げている。これらの産業はどれも大型工作機械設備の使用を必要としており、まさに台湾メーカーのチャンスと言えよう。技術部門では科学技術プロジェクトの資金提供を受けて工研院を支援し、「高知能国産五軸加工コントロールソリューション」を開発した。高品質・高価値のある装置を工作機械業に提供することで工作機械市場の生産額を大幅に増加させていきたい。

第二に、デジタルサービス化と商品の突出した差別化だ。デジタル化によって機器がネットワーク化される。例えば工研院が開発したスマートセットトップボックスでは、生産ラインのすべての機器が接続され相互に通信することで、データを収集してメーカーに生産状況やリアルタイムの管理情報を提供することができる。また、このスマートセットトップボックスは古い機器にも取り付けることができるので、不要な投資をせずにデジタル化サービスをアップグレードすることができる。

第三に、スマート化により市場の多様な生産形態を満たすことだ。インダストリー4.0の波は止まっていない。そしてスマート化はその中でも最も重要な一環を成す。国際大手メーカーの考えは製造過程にいかにしてAI、loT、バーチャル、デジタル、５Gなどの技術を導入するかで、最先端のスマート工場を生み出すことで、生産ラインをフレキシブルかつ必要に応じてカスタマー化し、将来産業がぶつかるかもしれないどのような状況にもリアルタイムで対応、自動的にミスを防ぐようにする。

**業界動向/政府が産業支援のためクラウドプラットフォームを推進**

【2021-04-04 経済日報】

　今年工作機械産業は、顧客の需要の変化や一部の市場が徐々に飽和状態になりつつあることや市場の激戦化などに面し、企業の運営効率化向上や商品の差別化といった分野で競争に打ち勝っていく必要があると感じている。工作機械企業のデジタルトランスフォーメーション過程で重要な手段の一つとなる製品のスマート化や付加価値、また新たなパイプラインやビジネス様式を生み出すことが重要になってくる。

台湾機械産業は近年スマート機械製品とスマート製造の発展を遂げ続けている。中でもクラウドサービスは重要なスマート技術とソリューション手段となっている。

問題解決に向けて、経済部技術処工研院などの法人が共同で一つ目のスマート製造による公用クラウド「スマート機械クラウドプラットホーム」を立ち上げた。また機械工業公会、電気電子工業会との連携で会員メーカーが機械クラウドにアクセスできるようにサポートした。デジタル化できる領域を拡大し、機械クラウドが製造業のアプリケーションストアとなることでスマート化された設備が携帯アプリのようになり、産業の負担をより軽減できるようにする。

**欠品欠員の不利要素も３月機械輸出は３割増**

【2021-04-12 中央社】

国際的な貨物不足、現物料価格の高騰、労働不足といった不利な要因を物ともせず、３月の機械輸出額は去年同期より30.7％増加した。新台湾ドルで計算すれば22.5％増加になる。

中でも３月の工作機械輸出額は第４位で、年間成長率0.2％、珍しく輸出でトップ３に並んだ。電子設備の３月輸出額は第１位、年間成長率は135.2％、検測設備の輸出額は第2で、年間35.5％成長、動力コンポーネントの輸出額は第３位だった。

今年前３ヶ月の台湾機械輸出額は76.18億米ドル、去年同期より27.4％増加した。新台湾ドルで計算すると約2159.67億元、去年同期より20.1％増加した。

輸出先は、今年前３ヶ月の機械輸出国トップ３は中国大陸が32.4％、米国が21.3％、日本が6.4％を占めた。

工業会によれば、中国大陸は依然、台湾にとって重要な輸出市場で、この他韓国、シンガポール、オランダ、ドイツ、香港などの輸出国も二桁ほどの成長率を見せた。

世界産業の回復力はすさまじく、地政学とショートサプライチェーン効果もあって今年１年の生産額は連続４年の一兆新台湾ドルを突破できるのではないかと予測している。輸出額も３００億米ドルという大台にチャレンジ、台湾機械産業の新たな最高潮を迎えたい。

**伝動コンポーネント　機械設備輸出額トップ３**

【2021-04-13 経済日報】

　台湾機械設備の今年第１シーズンの輸出統計が発表された。注目に値するのは、機械設備輸出額のトップ３製品目のなかで工作機械が初めて伝動コンポーネントに取って代わってトップ３に躍り出たことだ。

　台湾機械工業会は次のように説明した「伝動コンポーネントの輸出は大幅に成長した。主な原因は世界の半導体、電動車、工業ロボット及び自動化産業が成長しつづけていることにある。リニアガイド、ボールスクリューなどの需要はますます高まっている。統計によれば、第１シーズンのリニアガイド輸出成長率は98％、ボールスクリューの輸出は108％増加に達した。」

　「世界の自動車産業は電動自動車製造に転換しつつあり、エンジン、ギアー加工設備関連のニーズが減っていることも工作機械輸出が減少している要因の一つといえる。」

　今年第１シーズン機械設備の輸出額トップ３品目は電子設備が15.3％、去年同期と比較して57.8％増加した。検測設備は14.0％で39.8％成長、動力伝動コンポーネントは7.9％を占め、51.5％増加した。

　工作機械第１シーズン輸出は年間7.5％増加、機械設備が輸出トップ３に並んだのは初めてのことだ。

**ロボット産業の長期的展望**

【2021-04-21 経済日報 】

　近年工作機械、自動化設備の需要回復で、ロボットと自動化産業の上昇が止まらない。法人によればコロナ収束後、工業製造が活動開始し自動車、半導体、電子パーツ等を含む自動化設備の注文が殺到、ロボット産業への新たな投資機会が生まれ、投資者にとっても長期的投資の価値があるようだ。

　日本工作機械工業会が新たに発表したデータによれば３月日本の工作機械の注文額が再復活、年間成長65％とここ２年で新記録をつくった。国内の注文が大幅増加し年間増加率18.7％に達したほか、海外オーダー額は去年同期よりさらに倍増加した。

　ROBO世界ロボットと自動化産業指数を例に見ると、２月に高値から一旦14％急落後、ここ１ヶ月ほどで再び約7.2％持ち直した。半分近くまで持ち直し、６ヶ月チャートが回復して四半期線に向かって進むなど強い上昇の勢いを見せた。

**工作機械産業の景気が熱い**

**前4ヶ月の輸出は8.04億米ドル、年間9.0％増加**

【2021-05-10 経済日報 】

　台湾工作機械産業の景気が回復し前4ヶ月の輸出額は年間9.0％増加した。中でも４月単月の輸出は13.5％増加、着実な伸びを見せている。

　主な原因を分析すると、前4ヶ月は新型コロナウィルス流行が依然猛威を振るうも、世界の主な国家の投資が少しづつ増加していったことが台湾の工作機械輸出のメイン市場の増加を促した。中でも特に中国大陸、トルコ、タイ、ロシア、メキシコなどの市場が増加した。

　統計によれば、前四ヶ月中国向け輸出成長が37％、トルコ29％、ロシア27％、タイ23％、マレーシア35％、メキシコ107％、ブラジル１％、オーストラリア57％、シンガポール21％成長した。

　このほか、もともと輸出が衰退していた市場が４月大幅に増加しプラス成長した。それにはベトナム２％、インド９％、イタリア18％の成長が含まれる。

　前四ヶ月輸出が衰退したのは米国が５％、日本20％、オランダ21％、ドイツ28％、韓国18％、インドネシア30％、香港68％などそれぞれ減少した。

**４月の機械輸出連続８ヶ月の黒字　年間３００億米ドルの大台に挑戦**

【2021-05-10 中央社】

　台湾機会工業同業公会は今日、機械設備輸出入の統計速報を発表した。４月機械輸出額は去年同期の輸出額より28.4％増加した。工業会によればこれは去年９月から８ヶ月連続の増加になる。

　今年前四ヶ月の機械輸出額累計は去年同期より27.6％増加した。工業会によれば、今年から輸出は平均二桁成長、台湾機械産業はすでに困難を脱却、力強い回復を遂げている。

　前四ヶ月の機械輸出額トップ３を見てみると、電子設備が15.5%を占め、去年同期より49.5％成長した。検測設備は14％で35.9％の成長、工作機械は7.9％を占め９％増加した。

　前４ヶ月の機械輸出国トップ３は中国大陸が33％、去年同期より51.6％成長した。工業会によれば、これは中国大陸が依然として台湾輸出の重要な市場であることを意味している。米国は20.9％で去年同期より25.2％成長、日本は6.3％を占める。

　台湾機械産業の今後の展望に関して工業会は、目下需要旺盛で業界は材料不足と待機状況に直面しているため、政府が国産パーツやコンポーネントの調整に協力し、国内機械メーカーに優先的に供給するよう提案している。

**コロナ禍　大国産業の現地化を懸念**

【2021-05-12 連合報】

　台湾工作機械とパーツ工業会理事長の許文憲氏は次のように語った。「注文は第３シーズンまで予想がつくが、レートによる運輸費用の高騰で何もかもが値上がりし人手も不足している。工作機械業者はお金が集まらないだけでなく、各大国のコロナ禍も収まる気配なく常態化しつつあり、業界の現地化も考慮に入れ始めているようで、これは国内の工作機械産業にとって大脅威となる。」

　許文憲氏は次のように話す「台湾はもともと米中貿易戦とコロナ禍が原因でいくらかのオーダーを比較的獲得しやすかった。しかしながらコロナ禍がますます蔓延し運賃など数値が増加するなかで、中国大陸や欧州、米国など人口の比較的多い地区では徐々に現地化を検討し始めているようだ。コロナが持ち込んだ面倒事を省くためだ。」

　　これらの問題をいかに解決すればいいだろうか？彼は「最終的にコロナ流行はいつか解決する。そして、ワクチンができれば産業も通常どおり回復するだろう。」と考えている。

**コロナ禍で物価が急高騰　政府に物価の抑制と防疫を要請**

【2021-05-26 連合報】

　コロナが熱を帯びる一方で、国内工作機械業は残業しつづけている。オーダーは第４シーズンまで受けた。が、台湾工作機械とパーツ工業会理事長の許文憲氏は次のように指摘する「目下鋼鉄の価格は一日三回変動、梱包用の木箱や紙箱も値上がりしている。それで、政府に鉄鋼価格の安定、市場の安定を訴えた。工作機械工業会も同時に政府に協力を要請した。」

　許文憲氏は次のように語った。「台湾はもともとコロナ流行を抑制できていたので国際間のオーダーも順調に第３，４シーズンまで受けていた。前２シーズンの輸出額は25％～30％成長すると予測しているが、今原材料の大幅な値上げに遭遇し、メーカーたちは国際オーダーの信用を守るために歯を食いしばってコストを抑えなんとか出荷を維持している。」

　「鋼鉄材料の価格上昇が止まらず、中国鋼材の川上価格が6％上がれば、川下価格は10％上がる。また機械梱包用の木材は110％にまで、梱包用紙箱も25％値上がりした。さらに大型機用の特殊な輸送コンテナは300%増、40フィートの標準的な輸送コンテナは場所によって最大500%増にまでなった。最終的には採算性が損なわれ、注文がいっぱいになっても、結局は利益が出ないかもしれない。」

　「コロナ爆発のこの一波がもしうまく制御できず物価もこのまま暴走していけば、第４シーズンや来年には顧客が徐々に注文を切り替えてしまい、今回のコロナ禍のせいで台湾の優位性が失われてしまうのではないか」と彼は心配している。

**コロナ禍上昇中　機械産業は３難に直面　政府に解決を期待**

【2021-05-27 経済日報 】

　コロナ禍が加熱し続けている。台湾機械工業会が3000近くの会員メーカーにアンケート調査を採ったところ機械業の景気は徐々に回復しているようだが、鉄鋼などの原材料コストの爆騰、労働不足の深刻化、またコロナ禍で生産がストップするなどの苦境に直面している。政府はこの問題を直視するべきだ。

　最近どのような原材料が上昇したかについて96.5％の業者が「鉄鋼価格が最も上昇した」と回答、「銅線価格が64%」、「原油価格が19.8%上昇」したという。

　人手不足の問題が深刻であると回答した業界は69.8％にのぼった。55.8％の業者は国内のワクチン不足、輸出用のコンテナ不足が依然として深刻な問題であると考えている感じている。また電気の不足を提示したのが41.9％、水不足を32.6％の業者が感じているようだ。

　この他、48.8％の業者はワクチンの優先接種を希望しており、47.7％の業者は生産を停止することはできないと言う。33.7％の業者はワクチン接種の補助を希望した。

**工作機械メーカー「五欠」でショートーオーダー停止**

【2021-06-04 経済日報】

　台湾工作機械とパーツ工業公会理事長の許文憲氏が昨日次のように語った「工作機械の今年前三ヶ月の受注はすでにいっぱいだが、材料、水、電気、労働力、ワクチンの不足など「五欠」状態にあり、工作機械産業の回復には不確かな要素が多く、サプライチェーンシフトの危機も懸念される。」

「国内工作機械メーカーはコロナ流行後、経済復興のビジネスチャンスに恵まれた。海外からの受注も急増しており第3シーズンまでに平均して受注が成立、一部のメーカーは第４シーズン分までも期待できる。主に大陸、米国、トルコ、ロシアなどの海外市場だ。」

注目に値するのは、今年上半期工作機械産業の受注はフルで前２シーズンの輸出額は25%～30％の成長が見込まれるが、深刻な材料不足の問題ゆえにショートオーダーを止めたメーカーもあるということだ。

工業公会の調査によれば、銅、アルミ、鋳鉄、合金鋼、鉄鉱石などの原材料は不足していないものの、原材料の調達コストが大幅に上昇し、納期を延期しているという共通の問題があることがわかった。

**新台湾ドルの上昇　為替影響への対応を政府に要請**

【2021-06-09 中央社】

　台湾５月の機械輸出額は27.3%成長した。台湾機械工業同業会は「これは去年９月から連続９ヶ月の成長、連続５ヶ月で輸出は2倍に増加した。台湾機械産業はいまのところ好調だということだ」と語った。

　５月、トップ１０の機械製品輸出額の分布を見ると、ほとんど大幅な増加が見られる。そのうち、工作機械輸出の比率は8.4％で第４位、年間成長率33.8％、工作機械の年間成長率が米中貿易戦以来初めて3割を上回った。

　今年前５ヶ月の台湾機械輸出額累計を去年同期と比較すると（米ドル計算で）27.5％の増加があった。しかしながら、新台湾ドルが上昇したため、（新台湾ドル計算での）今年前５ヶ月の輸出額は去年同期より20.1％の成長にとどまった。

　輸出市場からみれば、今年前５ヶ月中国大陸が第１位で33.3％を占め、去年同期より46.3％成長した。中国大陸は依然、台湾の重要な輸出市場といえる。米国は第２位で20.7％、年間成長率は22.2％だった。この他、韓国、シンガポール、ドイツ、オランダ、香港、インドなどの輸出も二桁成長した。

**工作機械景気回復　伝動と気動コンポーネントメーカーが強壮剤に**

【2021-06-18 中央社】

　工作機械市場の回復に加え中国や欧州の高まる需要により、リニアスライドなどの伝動コンポーネントの納期が延期、気道コンポーネントの注文が供給能力を大幅に上回っている。法人は上銀、亞德客-KY、全球傳動、直得などの業績は改善される見込みだという。

　工作機械市場を観察して本土の投顧法人は次のように語った「去年５月日本の工作機械注文は最低水準を記録した後、月を追うごとに回復し今年3月には直近の最高水準に達した。４月、５月の年間成長率も上昇し続けている。主に米国のブロック化が徐々に解除され、自動車や半導体業界の加工需要が増加したことによる。今後９ヶ月から１５ヶ月の間に日本工作機械の注文も成長が期待できるだろう。」

　しかしながら法人はこうも指摘している「今年の工作機械産業は依然、原材料の納期延長と国際的な出荷スケジュールの乱れなど変動要因に左右される状況が続いているため、工作機械機台の納期が延期されただけでなく、主要部品でもあるリニアレールとボールスクリューの納期も延期された。サプライメーカーの納期延期の要因は注文の回復と生産能力の制限にある。」

**新型ウィルスは輸出に無害？６月、第２シーズン、2021上半期「最高」**

【2021-06-21 経済日報】

　5月中旬に発生した台湾の新型ウィルスは警戒レベル3になったが、輸出受注には影響なく好調だった。経済部統計書の発表によれば、5月の輸出受注額は前年同月比34.5％増と過去最高を記録し、15ヶ月連続で黒字となった。

　基本金属製品は、主要国家が続けて基礎建設を拡大したことで、鋼鉄の需要が促進されたことに加え原料価格も上昇したため鋼鉄価格も上昇し、６月の注文は年比95.3％増加、37年の記録以来最大の上昇幅となった。機械製品は各国が半導体、印刷電路版等の生産機械と自動化設備や工作機械の需要があり、また木工機械、動力手工具などもあり、年比55％増加した。プラスチック・ゴム製品と化学製品もそれぞれ80.7％、64.1％増加、11年来の最大上昇幅となった。

　主な注文は米国、中国大陸及び香港、欧州と東アジアなどの４地区によるもので、金額は同月比較で史上最高記録を作った。主な受注地区は依然米国がトップで注文金額は年間28.1％、連続16ヶ月の黒字となった。大陸（香港含む）の注文金額は４割増、連続16ヶ月黒字となった。

　欧州の注文金額は年比20.9％増加、これもまた７ヶ月連続２倍に伸びた。東アジアは年比５割近くの増加、連続１２ヶ月の黒字だった。

**海外受注連続15ヶ月黒字　年比34％増加**

【2021-06-22 経済日報】

　今年５月中旬、台湾本土の新型ウィルスが爆発的に発生し、我が国の防疫警戒体制はレベル３に突入したが輸出の注文に害はなかった。経済部統計書が昨日発表した５月の海外向け受注額は前年から34.5％増加し過去最高の記録となった。これは連続15ヶ月のプラス成長だ。統計処は、今年６月、第２シーズン及び2021年上半期の輸出も「史上最高」の成績になるだろうと期待している。

　IT製品の成果はまちまちであるのに対し、伝統製品は一貫して良好だ。金属製品はメイン国家が続けて基礎建設を拡大していることや原材料価格の高騰が起因となって、６月の注文金額が年比95.3%増加、輸出受注の増加幅は記録を開始してから37年来最大増加幅となった。機械製品は生産機械、自動化装置、工作機械など、各国で高い需要があるため、年間で55％の増加、プラスチック・ゴム製品と化学製品はそれぞれ80.7％、64.1％の増加となり、11年以来の増加となった。

**5**月の輸出額は単月の過去最高水準

【2021-06-10 台湾財政部集計】

5月の輸出額は前年同月比+38.6%と、当局予想（+25-31%）を大幅に上回り、単月の過去最高を更新した。主因は、①世界経済回復の加速による製品需要の強まり、②5Gの加速化、リモートワーク・巣ごもりの需要拡大を背景に半導体・情報通信の好調維持、③原材料価格の上昇を受けて従来型製造業の好調によるものであった。

国・地域別では、主要輸出先が軒並みプラスとなった。アセアン、米国、欧州向けは単月の過去最高水準で、中国・香港、日本向けは単月の過去2番目水準であった。品目別では、主要品目が軒並みプラスとなり、情報通信、金属、ゴム・プラスチック、機械は単月の過去最高水準であった。

6月の輸出額について、当局は新型コロナの感染状況を考慮しない前提で前年同月比+27-31％増加と予測した。今後、デジタル機器利用の拡大が引き続き電子・通信の輸出を支えるほか、需要回復による原材料価格の上昇で従来型製造業の伸長も好材料になった。一方、米中摩擦の長期化とそれによる台湾輸出への影響可能性などには引き続き留意が必要である。また、工場でクラスターが発生する等、新型コロナウイルスの感染状況次第では、輸出に悪影響を与える恐れもあると見られる。